

『口笛吹いて』寸評

- ・軽快で変化に富んだりコーダーアンサンブル
- ・屈託のない曲想と楽器の選択がとてもよい
- ・アーティキュレーションの工夫が作品の内容をクッキリと印象づける
- ・すべてのパートに音域の広がりがあつて奏者はたのしめるはず
- ・「吹いて」では懇願しているよう 「吹きつつ」「吹きながら」とか

完成度をさらに上げるために

- ・小節線は全パートに通して引いてあつてもよい
- ・Rec①→Rec.① Rec③.→Rec.③
- ・参考音源では♩=120らしい メトロノーム表記をもちこもう
- ・リコーダーはダイナミック変化がほとんどつけられない楽器
- ・m.1 Rec.II 四分休符にまとめよう
- ・m.2 b.2-3 Rec.I タイが課題にはあつた
- ・m.3 b.1 Rec.III 四分休符でよい
- ・m.4 Rec.III 全休符は小節の真ん中へ
- ・m.5 Rec.II 四分休符+二分休符で記譜しよう
- ・m.7 Rec.I 二分休符にしよう
- ・m.14 たとえば Coda にあたるm.15の直前で一旦停止させてみる



m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

演奏にとりかかってみたくなる作品ですね。

持庵 勉